

第 24 回映像メディア英語教育学会

九州支部研究大会

The 24th ATEM Conference of Kyushu Chapter

[日時 Date] : 2022 年 8 月 27 日 (土) 13:00- (August 27th, 2022)

[会場 Place] : オンライン開催 (Zoom Web Conference)



第24回映像メディア英語教育学会九州支部研究大会

[日程 Date] : 2022年8月27日(土) (August 27, 2022)

[会場 Place] : オンライン開催 (Zoom)

ミーティングID: 826 4078 4301 パスコード: 813397

- ・支部会員の方には、メールにてZoomのURLをお知らせしています。
- ・お困りの際は事務局(k_office@atem.org)にお知らせください。URLをお知らせします。
- ・セキュリティ確保のため、入室時は氏名(フルネーム)の表示をお願いします。

13:00~13:10 開会式・支部総会 Opening Ceremony

- ・開会のあいさつ 支部長 : 吉村 圭
- ・2021年度会計報告&2022年度予算案 事務局長: 石田 もとな
- ・2023年度運営組織の承認

13:15~15:40 研究発表 Sessions

Session1 13:15-13:40

スポーツ映画を通して考えるインターセクショナルリティ

秋好 礼子 (福岡大学)

Session2 13:45-14:10

映像メディアを用いた発音指導法—明瞭性の研究結果に基づいて—

中山 聡 (西南学院大学大学院文学研究科英語学専攻)

Session3 14:15-14:40

音声学的知見を用いた英語教育活動—映画 *Harry Potter* を通したリスニングの結果報告—

神谷 祥之介 (福岡大学大学院人文科学研究科博士課程後期)

石橋 頌仁 (福岡大学大学院人文科学研究科博士課程後期)

Session4 14:45-15:10

動画の物音の魅力—CCを基に—

兼本 円 (琉球大学)

Session5 15:15-15:40 【支部交流発表・北海道支部】

We find joy in learning: from the views of lifelong English learners

NISHI Yoshikazu (Graduate of Otaru Business School)

HIRAKAWA Ryo (Graduate of Otaru Business School)

CHISAKA Naoto (Graduate of Otaru Business School)

15:45～16:45 シンポジウム Symposium

映像メディアにみる多様性への配慮

石田 もとな (鹿児島女子短期大学)

吉村 圭 (九州女子大学)

16:50～ 閉会式 Closing Ceremony

・閉会のあいさつ

副支部長 : 秋好 礼子

17:00～ オンライン親睦会 Online Social Gathering

<オンライン親睦会について>

- ・希望される方のみ、そのまま会場に残ってご参加ください。
- ・1～2分程度ずつ、自己紹介や近況報告、発表へのコメント等をいただきます。
- ・飲み物とおつまみはセルフでご用意ください。

【発表 1】 Session1 13:15-13:40

スポーツ映画を通して考えるインターセクショナリティ

秋好 礼子（福岡大学）

司会：福田 浩子

東京オリンピック開催という稀な機会を逃すまいと勢い込んだ筆者は、スポーツを通して英語圏社会・文化を考えるとという趣旨の授業を2020年初頭に計画した。新学期直前にオリンピックが中止となり、すっかり気分は盛り下がったものの、授業計画を再編成し、一貫してスポーツ映画を取り扱うことにした。そもそも、スポーツ映画に定型的に見られるのは「苦境から這い上がる」というテーマであり、各選手が直面している「苦境」は何に端を発するのかということを考えることは、スポーツという枠を超え、それを包み込む社会構造の複雑性に焦点を当てることになる。本発表では、人種、移民、ジェンダー、階級などの問題が重要な要素となっているスポーツ映画を、その順番に注意を払いつつ連続的に提示することによって、インターセクショナリティという概念に学生の意識を向けさせる方法について考察する。

【発表 2】 Session2 13:45-14:10

映像メディアを用いた発音指導法－明瞭性の研究結果に基づいて－

中山 聡（西南学院大学大学院文学研究科英語学専攻）

司会：福田 浩子

グローバル化が進む世界では、英語を媒介語としてコミュニケーションが行われることが多いが、実際にどの程度明瞭性があれば通じる英語として認められるのか。大学の卒業論文にて、中学生の即興的な英語発話の明瞭性について研究を行った。明瞭性を妨げる要因を「子音によるもの」「母音によるもの」「強勢位置の誤りや母音促音の挿入によるもの」の3つの分類で分析を行った。これらの分析をもとに、発音指導にて発音（発話）の誤りの「修正」を行う必要がある。しかしながら、日本人教師である以上、完璧な発音指導ができるとは限らない。そこで、映像メディアを用いた発音指導の方法を紹介する。

当日の発表は、①研究方法、②研究結果、③結果の考察、④結果に基づいた発音指導の方法の紹介、の順で発表する。今後の研究の発展のため、多くの意見を賜れることを期待している。

【発表 3】 Session3 14:15-14:40

音声学的知見を用いた英語教育活動
—映画 *Harry Potter* を通したリスニングの結果報告—

神谷 祥之介（福岡大学大学院人文科学研究科博士課程後期）

石橋 頌仁（福岡大学大学院人文科学研究科博士課程後期）

司会：進藤 三雄

英語の音声に見られる子音の脱落や同化現象がどのような状況下で起こりやすいかなどの音声学的知識は、英語学習者のリスニング能力向上において非常に役に立つと考えられる。しかし、一般に言語系の学部・学科で行われる音声学の講義では、その覚えることの多さや理論の煩雑さから、必ずしも学生に「楽しい」と感じてもらえるとは限らない。このような現状を鑑みると、全学部・学科対象の共通英語科目の講義内で、音声学の知識を有効に用いたリスニング活動を展開するには尚更の工夫が必要であると考えられる。これを踏まえて現在筆者らは、映画 *Harry Potter and philosopher's stone* を用いたリスニングの練習を情報工学部1・2年生向けの講義に取り入れており、その実践報告については既に行っている。本発表ではさらに、この活動を継続した結果、学生のリスニング能力や学習充実度がどのように変化したかを報告する。

【発表 4】 Session4 14:45-15:10

動画の物音の魅力—CC を基に—

兼本 円（琉球大学）

司会：進藤 三雄

本発表は学習者と研究者にとっての動画の中の「物音」の魅力を紹介するものである。

動画鑑賞者にとって最も興味を惹かれるものはストーリー展開とダイアログであろう。しかし、作品はそれらのみで成り立っているものではない。動画にはBGM、建造物、雑踏、動物、複数の非言語要素、さらに「物音」までが導入されている。

本発表では動画の中の「物音」を収集分析し、そのものが持つ魅力を紹介している。ここではアメリカ映画 *Batman* を基に創作された *Gotham* をデータとして用いている。本作品は5シーズン、計100エピソードで構成されている。英語学習者にとっての最大の魅力としては物音の多くを読み、同時にその音を耳で確認できることである（この魅力は書籍では体験できない）。

英語文化の研究者にとっては次の3つが物音の魅力だと考えられる。1) テクノロジーの変化と伴に消滅したか、消滅しかける物音。2) 変化することなく、そのまま残る物音。3) 古いものに加わる物音。

本研究は単発で終了するのではなく、これをきっかけに動画中の物音の蓄積を年代別に進めていくものである。

【支部交流発表・北海道支部】

【発表 5】 Session5 15:15-15:40

We find joy in learning: from the views of lifelong English learners

NISHI Yoshikazu (Graduate of Otaru Business School)

HIRAKAWA Ryo (Graduate of Otaru Business School)

CHISAKA Naoto (Graduate of Otaru Business School)

Moderator: HAYASHI Yuji

This presentation will show the ways of learning English as lifelong learners.

Nishi will show you a new style of homework using BBC News and Twitter. This is a very good way for students to study both “News English” and “International situations”. First, students will read the BBC top news. Second, they will post it on Twitter in Japanese. As a result, they will be interested in international situations.

Hirakawa will show you a way to improve English proficiency, information literacy and business English. I expect to improve these three skills. Therefore, I take advantage of online media. I give high priority to listening and reading. Online media is a storehouse which contains a great variety of useful information. The reason for this is that I always find good quality texts there. Online media is the most typical of all quality texts.

Chisaka will show you how to learn English through Western music. I have been listening to the Beatles for 50 years. I have also used their music to study English. Nowadays, YouTube and DVDs are easily available at a low cost. Today I would like to show you how to study English through western music on YouTube and DVDs.

映像メディアにみる多様性への配慮

石田もとな（鹿児島女子短期大学）

吉村 圭（九州女子大学）

映画及び映像メディアは、それぞれの制作された時代の写し鏡として、そのときどきの価値観の変化を映しだしているといえる。その中で、SDGsの実現が求められ、多様性が尊重される現在においては、かつて問題とされなかった表現や描写に新たな配慮が求められるようになってきた。本シンポジウムでは、映像メディアにおける多様性への配慮のあり方に着目し、議論を行う。

石田は、昨年発表において空港等でのパブリックアドレスにおける「表現の変化」に関する考察を行った。映画のワンシーンやYouTubeに公開されている実際の場面を用いることで、過去と現在の表現のあり様を比較した。SDGsの実現が求められる昨今、項目5に該当する「ジェンダー平等」に配慮した表現の変化が多くみられるようになった。丁寧な表現・マナーとして使われてきた言葉が、「ジェンダー平等」の実現にとっては妨げとなるものとして扱われるようになってきている。今回のシンポジウムにおいては、社会が変わることによって、ポリティカルコレクトネスにも変化が生じ、それに合わせて言葉やマナーも変遷を遂げていくことに関して映像メディアにおける変化を通し、ポリティカルコレクトネスの変化を検証していきたい。ポリティカルコレクトネスには、妥当であると思われるものと、行き過ぎたものがあると考えられる。また、国によって「正しさ」の感覚に違いがあることも事実である。LGBTQへの配慮が世界的に求められる時代になっていても、同性愛者が死刑になる国は存在する。SDGsは、「だれ一人取り残さない」ことを謳うが、メンタリティや社会課題の違いを乗り越えて実現するためにはどの方向に向かうべきなのかを考察したい。

吉村は、A. A. Milneが著した *Winnie-the-Pooh* 及び、ディズニーによるアダプテーション作品群から、「よそのもの」の描かれ方に焦点をあて、その描かれ方について考察を行う。金子(2011)は、*Winnie-the-Pooh* に登場する象 (Heffalump) をアフリカやアジアなどの旧植民地を表象する存在と捉え、作品から帝国主義的意識を見出す取り組みを行っている。そして金子は、100 エーカーの森では Tigger、Kanga、Roo など本来「欧州に生息していない」動物がきちんと「他所からやってきた新参者」(65) として描かれていると指摘している。つまり、動物たちの実際の生息地が物語に反映されており、非ヨーロッパ的動物は「よそのもの」として描かれているのである。本発表では、原作の小説において「よそのもの」として描かれた Heffalump が、その後ディズニーによって制作されたアダプテーション作品群においてどのように描かれているのかを検証する。

*金子史彦.(2011). 「Winnie-the-Pooh 及び The House At Pooh Corner に見る帝国主義者の不安」『比較文化研究』,(96), 63-73.